

本島通信

論達第四号

立教百八十九年、教祖百四十年祭を迎えるにあたり、思うところを述べて、全教の心を一つにしたい。

親神様は、旬刻限の到来とともに、教祖をやしろとして表にお現れになり、世界一れつをたすけるため、陽氣ぐらしへのたすけ、一条の道を創められた。

以来、教祖は、月日のやしろとして、親神様の思召をお説き下され、つとめを教えられるとともに、御自ら、ひながたの道をお示し下された。

そして、明治二十年陰曆正月二十六日、子供の成人を急ぎ込まれ、定命を縮めて現身をかくされたが、今も存命のまま元のやしきに留まり、世界たすけの先頭に立つてお働き下され、私たちをお導き下されている。

この教祖の親心にお応えすべく、よふぼく一人ひとり教祖の道具衆としての自覚を高め、仕切つて成人の歩みを進めることが、教祖年祭を勤める意義である。

おさしづに、ひながたの道を通らねばひながた要らん。(略)ひながたの道より道が無いで。

(明治二十二年十一月七日)

と仰せられている。教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標に教えを實踐し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めるときである。

教祖はひながたの道を、まず貧に落ちきるところから始められ、どのような道中も、親神様のお心のままに、心明るくお通り下された。

あるときは、
「水を飲めば水の味がする」

と、どんな中でも親神様の大きいなる御守護に感謝して通ることを教えられ、また、あるときは、

「ふしから芽が出る」

と、成つてくる姿はすべて人々を成人へとお導き下さる親神様のお計らいである。論され、周囲の人々を励まされた。

さらには、
「人救けたら我が身救かる」

と、ひたすらたすけ一条に歩む中に、いつしか心は澄み、明るく陽気に救われていくとお教え下された。おばを慕い親神様の思召に添いきる中に、必ず成程という日をお見せ頂ける。この五十年にわたるひながたこそ、陽氣ぐらしへと進むただ一条の道である。

今日、世の中には、他者への思いやりを欠いた自己主張や、利他的行動があれ、人々は、己が力を過信し、我が身思案に流れ、心の闇路をさまよっている。

親神様は、こうした人間の心得違いを知らせようと、身上や事情にしろしを見せられる。頻発する自然災害や疫病の世界的流行も、すべては私たちに心の入れ替えを促される子供可愛い親心の現れであり、てびきである。一れつ兄弟姉妹の自覚に基づき、人々が互いに立て合いたすけ合う、陽氣ぐらしの生き方が今こそ求められている。

よふぼくは、進んで教会に足を運び、日頃からひのきしんに励み、家庭や職場など身近なところから、にをいがけを心掛けよう。身上、事情で悩む人々には、親身に寄り添い、おつとめで治まりを願い、病む者にはおさづけを取り次ぎ、真にたすかる道があることを伝えよう。親神様は真実の心を受け取つて、自由の御守護をお見せ下される。

教祖お一人から始まったこの道を、先人はひながたを心の頼りとして懸命に通り、私たちへとつないで下さった。その信仰を受け継ぎ、親から子、子から孫へと引き継いでいく一歩一歩の積み重ねが、末代へと続く道となるのである。

この道にお引き寄せ頂く道の子一同が、教祖の年祭を成人の節目として、世界たすけの歩みを一手一つに力強く推し進め、御存命でお働き下さる教祖にご安心頂き、お喜び頂きたい。

立教百八十五年十月二十六日

真柱 中山善司



まずお掃除からが お道の基本

秋季大祭におけるメッセージ

立教185年10月22日

大教会長 片山幹太

ご帰参の皆様には大教会の秋の大祭に遠近を問わずお帰り下さり誠にありがとうございます。
いよいよ今月(10月)26日、論達第

四号が発布されます。

真柱様は今年の年頭あいさつにおいて、「私は、道を伸展させるためには、いろいろな意味において、教祖の年祭を勤めることは大切なことであると思いますので、次の百四十年祭は勤めさせていただきたいと思っ

ています」と仰せられました。このお言葉から、このたびの年祭活動は「道を伸展させる」ための活動であり、そのための論達第四号であると受け止めております。

真柱様の御心に沿い、改めて立教の大目標である「世界一れつをたすける」を心に治め、我々一人ひとりの徳分や役割を活かし、お道の伸展に努めさせて頂きましょう。

さて話は変わりますが、私たちの第一の御用は何でしょうか。

答えは「お掃除」ではないかと私は思っています。

ご本部でも大教会でも、さらに各分教会も、おつとめを勤める前には必ず神殿掃除を行います。おつとめの地歌は「あしき」を払うことから始まります。さらに、おふでさきに

そふぢしたところをあるきたちとまり そのところよりかんろふだいを (第八号83)

とありますように、ちび定めるときも、まずお掃除が行われました。大事なことの前に、お掃除をします。これはお道の基本であるように思います。また、これがようぼくの歩み

だと思えます。

お互い、形のお掃除から、心のお掃除を行い、論達第四号を読み深め、道の伸展に向かったすけ合い、励まし合いながら、一手一つに努めさせて頂きましょう。

ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

本島大教会 神殿講話(要旨)

【立教185年10月22日】

教祖年祭のふしは 人生の芽を吹かせるふし

大教会役員 長谷川邦昭 はせがわくにあき

只今は本島大教会秋季大祭を、一同陽気に勇んで勤め終えましたこと、誠にご同慶に存じます。

私は来年80歳になります。これまで50年間に及ぶ信仰生活を通して体験した、親神様の不思議な御守護について回想させて頂きたいと思えます。

私は第二次世界大戦中、アメリカで生まれました。そして戦後、

家族6人は焼け野原だった広島に帰り、牛小屋で生活しました。生活は貧しく、麦ご飯にサツマイモ、大根粥の日々でした。

広島では10年間生活しましたが、生活は依然厳しく、家族で再びアメリカに戻りました。私が12歳のとき、いまから67年前のことです。

アメリカに戻った私は、英語が上手く話せず、友達もできませんでし

たので、アメリカ空軍に入隊しました。基礎訓練を終えると、日本語が分かるという理由で青森県の三沢基地に駐屯しました。その時に妻と知り合い結婚しました。

その後、除隊してサンフランシスコの大学に入学し、もう少しで大学卒業というときに大きな病気を患いました。

口、鼻、お尻から出血して血の海となり、意識が遠くなって倒れました。

そのとき天理教の先生が来られ、道一条になることを勧められました。私は、信仰しても布教する自信がありませんでした。しかし妻は「人が生きているなら、たとえ火の中、水の中でも通らせて頂きます」と答えました。そして救急車で病院に搬送されました。

医師は「あなたは大出血して、普通なら命はないところ、奇跡的にたすかったね。私がたすけたんじゃない、天の神様があなたをたすけたんだ」と言いました。そのひとりで、私は道一条を通ることに決めました。私はおちばに帰り、修養科を志願し、修了後は大教会青年を勤める中、片山俊次3代会長様よりサクラメントにあるエヌ・シー教会を後継する

よう御命を頂き、夫婦でエヌ・シー教会に入り込みました。

教会に入り込んだものの、私には分からないことだらけで、やることなすこと信者さんの不満を聞かされました。「おつくしの話はしない方がいい」とか「あの人は教会に参拝させないほうがいい」とか、注意されたり怒鳴られたり、次第に神様って本当にあるのかなと疑いの心が忍び寄り、信仰心が薄らいできました。そして人と接触するのが嫌になり、怖くなってきました。

しかし、私には救いの人がいました。私の妻です。

私が修養科に行っている間、妻は実家の岩手に帰り、母に天理教を布教することを報告しました。母は反対はしなかったものの「家はあるのかい。食べ物はあるのかい」と聞かれ、「布教に出るのだからそんなものはないよ」と答えると、母はほろほろと涙を流したそうです。

妻の実家は裕福な家庭で天台宗のお寺の総代を勤める名家でした。それが娘を遠いアメリカにやるだけでも心を痛めていたでありましょう。その上、天理教の布教とは想像もできないことだったと思います。



夫婦が道一条で教会に入り込んだのは、私が29歳、妻26歳でした。夜は悩み眠れず、心だけ焦って何も手につかない日々でした。妻はアメリカの教会で、英語も文化も分からない中、小言や不足を言わずいつも笑顔でいてくれました。それが私にとって一番の救いでありました。よく離婚しないで一緒にいてくれたなと今とても感謝しています。

教祖90年祭の前年、妻は妊娠中でしたが身上の方を連れて修養科に入りました。秋の大祭の頃、天理よろづ相談所病院憩の家で長男を出産し、私たちに明るい兆しが見えてきました。

ところが教祖100年祭前、思いもよらぬふしを見せられました。それは弟がレストラン経営に失敗して自殺したのでした。私は連帯保証人になっていたので、6万ドルという莫大な借金を背負うことになりました。その中、諭達第三号が発布されました。「百という字は白紙に戻り一よりはじめると謂う」

そして教祖100年祭の前年、おちばで教会長講習会があり、前真柱様より「ここにいる皆さまの中に、いづんでいる人がいるとするならば、心を

ちよつとかんろだいの方に向けて欲しい。ちばが息を吐けば皆様の教会も息を吐き、ちばが息を吸えば皆様の教会も息を吸ってほしい」とのお言葉が私の胸に強烈に響きました。

私は人間思案を絶ち切つて、神一条のために次のことを心定め、実行することを誓いました。

- 1、禁酒禁煙。
- 2、十二下りを毎日つとめる。
- 3、日々の理を上級に毎日送る。
- 4、おちばに春秋の大祭と誕生祭に毎年帰る。

実行する中でも大きなふしを見せられました。

その一つが、刑務所から出所した青年を教会で預かっていたのですが、その青年が隠れて薬物をやっていて、私はある日突然バットで頭部と両手を殴られました。妻と子供がすぐ救急車を呼び、病院に運ばれましたが、医師から「よく生きていたね。できることはするが保障は出来ない」と言われました。

医療保険はなく、私は連帯保証の借金の上に治療費5万ドルが追加されました。頭は目眩が半年ほど続き、両手はギプスで固定されました。妻は食事から下の世話まで、愚痴一つ

言わずに介護してくれました。

私はおつとめも、おさづけのお取り次ぎも出来ず、やる気も次第に失われていきました。日々悩み、精神的にも肉体的にも最悪の状態に落ち込みました。心定めを真剣に実行しているのに、厳しいふしを見せられ、借金は山積み、返済の目処も立たず、私の心は真つ暗なトンネルの中、なかなか光が見えない毎日でした。会長を辞職することも考えました。

その中、本部教祖殿の廻廊で教服姿の前真柱様が私の前に現れ、「長谷川君、何もかも分かっているよ」と手を握って下さいました。私のやるせない胸の内を見透かされ、私は前真柱様に抱きついて泣きました。それは夢でした。

それでも私は嬉しくて、その朝、親神様、教祖に御礼とお詫びを申し上げました。その時、おふで、さきの次のお歌が目に残りました。

このかやしなんの事やとをもつなよ
せんあくともになかなかやすてな

よき事をゆつてもあしきをもふても
そのまゝすくにかやす事なり

この事をみへきたならば一れつわ
どんなものでもみなすみわたる
けふの日八なにがみへるやないけ

れど 八月をみよみなみへるでな

(第五号53〜56)

私はこのおふで、さきに感動して涙が溢れてきました。それは、前真柱様の夢、そしておふで、さきに気づいた日が8月1日だったからです。

その1年後、前真柱様がアメリカ伝道庁をご参拝になり、思いがけず直接お目にかかる機会を得ましたので、私は今までの事情を申し上げると、前真柱様は「長谷川君、教祖は『二十年三十年経つたなれば、皆の者成程と思う日が来る程に』と仰つた。頑張つてな」と私の手を握って下さいました。私は嬉しくて涙が出てきました。



その後、教祖110年祭の論達では「日々はちば、一つに心を寄せて、誠の道を仕切り根性、仕切り力、仕切り知恵をもって、陽気ぐらしの手本と言われる教会内容の充実に表れるように通らせて頂きたい」とご発表がありました。

そして教祖110年祭の一年間を年祭の年とするとのご発表があり、私は「おぢばの声は天の声」と受け止め、アメリカから毎月おぢばがえりする心を定めました。

莫大な借金がありますから、難しい心定めでしたが、家族の協力も得て、1年間12回のおぢばがえりをさせて頂くことができました。

そして最後、教祖殿で額ずいて一年間お連れ通り頂いた感謝を教祖に御礼申し上げていたところ、誰かが私の肩をそつと叩きました。振り返ると、まさ奥様(前真柱様夫人)でした。奥様はにっこり微笑まれて「毎月骨を折っておぢばがえりご苦労さま。ありがとう」と仰いました。私はあまりの嬉しさに頭の中が真っ白になり、感激のまま勢い「おぢばがえりを続けさせて頂きます」と申し上げました。後になって、なぜあの言葉が出たのが不思議に思いました。

さて、これから飛行機代をどうやって工面しようかと、妻と相談していたところ、娘が「お父さん、飛行機代は私がお手伝いするから安心して」と言いました。娘はユニイテッド航空の客室乗務員に応募して、約20倍の倍率の中を採用されたのでした。私は娘の思いや、教祖の先回りの御守護に跳び上がるほど嬉しく思いました。

それからは教祖120年祭まで12年間、通算144ヶ月間、毎月おぢばがえりさ

せて頂くことができました。これは親神様、教祖の御守護はもちろんのことですが、前真柱様、まさ奥様の温かいお言葉のお陰です。お二人ともお出直しになり、今は懐かしくも寂しい思いでいっぱいです。

それからは本気で布教しました。それまでの私は臆病で、匂いがけが嫌いでなかなか出られませんでした。お道の教理も不十分です。その上、英語でどう話したらいいのか分からず苦労しました。話術も下手です。毎日が葛藤でした。勇気を出して匂いがけに歩いて、しどろもどろで自分でも何を言っているのかわからない。あるときは怒鳴られ、断られ、笑われ、キリスト教への改宗を迫られ、あるときは犬に足を噛まれて出血したこともありました。ますます自信をなくして悩みました。匂いはかからず、心の葛藤を続けていると、うつ病になりました。そんなとき、神様のお言葉に励まされました。

いつもわらわはれそしられて
めづらしたすけをするほどに

(三下り目)

やしきハかみのでんぢやで
まいたるたねハみなはへる

(七下り目)



「そうだ、おぢばは種を蒔くところだ。真実の種を蒔こうと心を定め、夜は本部神殿で、昼間は詰所で清掃ひのきしんをさせて頂き、匂いがけに歩きました。」

ある家では「天理さんは信仰すると全財産を持って行かれるやろう」と言われましたので、「私は天理教を信仰していますが、お陰でアメリカから毎月日本に帰れる結構を戴いてますよ」と申し上げ、その方はその後おさづけの理を拝戴されました。

またある日匂いがけの最後の家で、ご婦人さんが出てこられました。「私は天理教の布教師です」と申しますと、快くご自宅に上げて下さり、立派な部屋に案内された上にお茶とお菓子が出てきました。聞くと当時の天理市長のご自宅でした。足腰の弱

そうなおばあ様が出てこられたので、お話をしておさづけの理を取り次いで頂きました。

また本部月次祭の参拝中、金髪女性が一人で参拝していたので声をかけてみますと、その方はニューヨークから奈良へ英語を教えに来ていたところ、美しいメロディーに惹かれて参拝していたとのことでした。お道に関心を持ち、毎月別席を運んでおさづけの理を拝戴されました。

アメリカで個別訪問をしているとき、ある家では戸に鍵がついたままだったので、ベルを鳴らして声をかけると、イタリア系のアメリカ人が出てきて家に入れて下さいました。元々カトリック信徒だったご主人がなぜか天理教に興味を持たれ、ついにはアパートを引き払って教会に数年間住み込まれました。大工さんなので、教会の修理をあちこちしてくれました。今もいろいろとお供え物を持って来て下さいます。

またある家では、子供が出てきたのでパンフレットを渡すと、怖い母親が出てきて「知らない人が来たら戸を開けると言ったでしょう！」と子供を叱り、目の前でドアをバンと閉められました。するとその怖い

母親が再び出てきて「長谷川先生ですか？」と訊ねます。私は「そうです」と言うと、「私は以前、本島鼓笛隊でおぢばに帰りました」と言うので、人口60万人の町で、昔の鼓笛隊員に会う奇跡に巡り会いました。

妻はある娘さんのおたすけに通っていました。残念にも出直されませんでした。しかしその娘のお母様Kさんがおぢばがえりされ、おさづけの理を拝戴しました。

ちょうどその頃、ホームレス親子が教会に住み込みました。教会には部屋が二つしかなく、私の息子たちはリビングルームで3人寝るような状況でしたので、せめてトレーラーハウスでもと思い銀行に相談に行きましたが借金を断られました。

先立つものがなくて困っていると、そのKさんが「私の息子に聞いてみたら」と言います。聞けば息子さんはある銀行の支店長をされていると言うのです。思い切つてその銀行を尋ねて支店長に相談すると「天理教はそんなことまでされるのですか」と驚かれ、サイン一つで速やかに資金を工面して下さい、数ヶ月後には3つ部屋のあるトレーラーハウスをお与え頂きました。その支店長さん

も、おぢばがえりされ、別席を運んでいます。

匂いがけとおたすけは、勢いと熱心さが必要です。おたすけを続けるうちに、いつの日か自分自身が喜べるようになり、それが人の琴線きんせんに触れるのだと思います。真剣に道を通れば知恵が出てきますが、いい加減な通り方だと愚痴や言い訳が出てきます。ですから、逃げない、避けな



さて、教祖120年祭では、上級ポートランド教会の前会長様のお出直しにともない、前大教会長様の御命を戴き、2002年にエヌ・シー教会長を妻に譲り、私は千キロ離れたポートランド教会長を勤めさせて頂くことになりました。そして12年間勤め、2014年に片山和信先生夫妻がポートランド教会長を後継され、一生懸命つとめられています。そして教祖130年祭の前年、本部春季大祭を終えてエヌ・シー教会へ戻った翌朝、ボイラーから出火して教会が全焼しました。火の手が

神床に渡ったとき、親神様・教祖のお目標様だけは遷座しなければと思

い、消防士の制止を振り切って無我夢中でお社をトレーラーハウスにお遷したしました。火災は鎮火まで90分ほどかかりました。

それから数日は夜も眠れぬ状態でした。大教会長様からお電話でお労いの言葉を頂いたとき、初めて涙が溢れてきました。

日が経って気を取り直し、結果として教会の火災は親神様から頂いた不思議な御守護だったことに気づきました。

教会は50年前のプレハブ建物で、老朽化とともにアスベストが見つかり、結果的に解体しなければならなかったこと。もし夜の火災だったら私も妻も出直していたことでしょう。

神殿ふしんにより、教会は新築になり、神床も檜材になりました。

火災は私がポートランド教会長を辞職して、心が緩んだ時機に発生しました。人生における苦労は、精神的に強くなり、年祭前に新しい教会のご褒美を頂き、先々結構をお与え頂ける種でありました。

そして喜び勇んで通らせて頂く中、教祖130年祭の三年千日の活動では大

勢の別席者、修養科生の御守護を頂きました。

そしていよいよ教祖140年祭活動が始まります。

昨年、私は5年に一度の健診で、腸に悪性腫瘍が12個見つかりました。そして手術、抗がん剤治療を行いました。

「身の内は親神様からのかりもの、心一つが我がのもの」とお聞かせ頂きます。

今までの、お道への不信感、悩み、うつ、怒り、心配、不安、不足、苛立ちなど、50年間お道を歩んで積んできたほこりが、身上に表れたのだと思案しました。そして親神様にもたれて、日々喜んでひのきしん、教会の御用をさせて頂こうと決意しております。

おかげでその後、私の身体は痛みなく、疲れもなく、食事も美味しく毎日頂き、体重は5キロ増えました。

病床で治療しているとき、お道は「かなの教え」でありますから、私は「あいいうえお」信条を考えました。

「あ」悪しき払い、ありがとう、明るい心で挨拶しまよう。

「い」いつも勇んでおたすけ、ひのきしん、いんねん果たしをいたしま

しょう。

「う」嬉しい、嬉しい、何を聞いても、何を見ても嬉しいと喜び、不足不満は慎みましよう。

「え」笑顔で円満な家庭を築きましよう。笑顔で人と人の絆を築きましよう。「お」親神様、教祖に真心をもっておつとめしましよう。親孝心をしましよう。そして夫婦思いやりの心で明るい家庭を築きましよう。

私は今、「ありがたいなあ、結構やなあ」と何事が起こっても起こらなくても口にするようにしています。

おさしづに「心の精神の理によって働かそう。精神一つの理によって、一人万人に向かう。神は心に乗りて働く。心さえしつかりすれば、神が自由自在に心に乗りて働く程に」

おふでさきに、しんぢつに月日の心をもうにわめへくのやしるもろた事なら

ふしは人生の芽を吹かず絶好の機会であります。

皆さまには、どうぞ諦めず、世間の風潮や常識に惑わされずに、この道を信じて教祖の御心に近づく努力、

工夫をして、心澄み切って、人たすけの寛容な心とひながたの道をたどる心を全うされることをお祈りいたします。

信仰の醍醐味はそれぞれのふしを真正面から受け止め、自分自身の努力と信念によって喜び得ると思いません。

教祖140年祭の論達をご発布いただきます。世界で見せられる天災、戦争、経済不況、コロナ禍など様々な事情は、私たちに心の入れ替えを促される子供可愛い親心の現れであると悟り、年祭活動に向かつて本島大教会一手一つに努めさせて頂こうではありませんか。

ご清聴ありがとうございます。

(文責・本島通信編集室)

ご清聴ありがとうございます。

統計 (9月1日~30日)

教会名	初席	中席	雲口座	修養料	教人講習	検定講習
米里	1					1
本倉		2	1			
本吉	1		1			
豪峰						
栄峰		1				
栄峰			1			
別峰						
鶴峰						
合計	2	4	3	0	0	1

秋季大祭 祭典役割

獻饗長 井上哲
伝 供 岩橋竜造・篠原丕王・永山晴明・吉田晴雄・向所隆文・永島宗行・大上道徳・伊東康成・高垣光治・雲庵春彦・吉田知彦・高島栄造・長濱充憲・岩橋守行・長尾海和・宮路和徳・寺本邦一・岩橋秀一・鎌田典夫・山下英久
須崎晴道・上山康雄・村田輝夫・木村太喜・時久英次・川村吉夫・溝口晋太郎・大矢万三
雅楽奉仕者 池田恒治・片山秀明・香川寛範・上山薫・伊東賢太郎・内橋和博・鎌田康典・伊東慎平・吉田豊慶・鎌田仁史
 (順不同)

神 殿 講 話	胡 三 味 琴 弓 線	小 す り が ね 鼓	太 拍 子 鼓 木	ち ゃ ん ぼ ん 笛	て を ど り	地 方	祭主	片山 勲	座りづとめ	長谷川邦昭	てをどり前半	原口 実																															
							指図方	寺本教生		厩者		岡崎マロン	賛者	奥村龍夫																													
							岩橋慶三	岩橋竜造		高垣光治		岩橋秀一	鎌田典夫																														
長谷川邦昭	向所暉美子	片山 榮	篠原丕王	岡崎八十則	大西 知	井上 哲	雲庵道延	平井真治郎	池田さわみ	片山 やすゑ	会長夫人	牧野道昭	高島清弘	片山 勲	西山道教	岩橋慶三	老木邦光	西山道教	宮路和徳	岩橋竜造	雲庵春彦	高垣光治	岩橋秀一	鎌田典夫																			
																									伊東晴美	岩橋元実	井上みつの	吉田晴雄	大上道徳	奥村龍夫	永山晴明	向所隆文	雲庵まち子	長尾啓子	岡崎むつゑ	長濱充憲	窪田靖明	伊東康成	岩橋竜造	雲庵春彦	高垣光治	岩橋秀一	鎌田典夫
																									谷口十糸子	岩橋貴子	原口和子	長尾海和	山下英久	岩橋守行	木村太喜	寺本邦一	吉田知彦	梅木澄代	永山みすゞ	高垣洋子	肥後 章	高島栄造	伊東康成	岩橋秀一	鎌田典夫	岩橋竜造	雲庵春彦

秋季大祭祭文

立教百八十五年十月二十二日

この神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会片山幹太に代り大教会役員片山勲慎んで申し上げます。

親神様には陽気ぐらしを楽しみにこの世と人間をお創め下され天保九年十月二十六日旬刻限の到来と共に教祖を月日のやしるにこの世の表にお現われになり、よろづいさいの元を明かし、かんろだいのぢばを定め、つとめを教えて世界一れつをたすけるための御教えをお啓き下さいました。

以来幾重の節の中も常に温かき親心をもってお連れ通り下さり成人の道を恙なく歩ませて頂く御慈愛の程は誠に有難く勿体ない限りでございます。

私共は届かぬながらもぢば一筋に心を正し御恩報じの道に努めさせて頂いておりますが、その中にも今日の吉日は立教の元一日にゆかりある当大教会の秋の大祭を迎えましたので、只今から役目に与る奉仕者一同心を一つに揃えて陽気に勇んで座りづとめをどりを勤めさせて頂きます。

御前には国の内外から道の子供たちが帰り集い喜びも一入に日頃積り重なる御恵みに御礼申し上げ、尚も尽きせぬ御守護にお縋りする真実の状をもご覧下さいます、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。尚来る御本部秋季大祭には真柱様から教祖百四十年祭に向う「諭達」を御発布下さいます。

私共は第四号の思召をしつかりと心に受け止めさせて頂き、どんな中も道の伸展を目指して通り切らせて頂く所存でございます。続いて十月二十七日にはおらばに於て第九十六回青年会総会が開催され、また十一月二十日には大教会に於いて青年会本島分会総会を開催させていただきます。何卒教会内容の充実と共に陽気ぐらしへの歩みを進めさせて頂く上には尚も自由の御守護を賜りますよう一層の指導の程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。
 (原文のまま)

入社祭

(立教185年10月22日)

▼台檀 △ Keann Tingyuan Hayate So
 ▼サウザンパシフィック △ Zephyr Natalie Spencer [計2名]

10月22日(土)

【香川県丸亀市】

天候 曇後時々晴
 最低気温 17.3℃
 最高気温 25.6℃
 平均気圧 1019.1 hPa
 平均湿度 71%
 平均風速 1.6 m/s
 日照時間 4.5 時間
 降水量 0.0 mm

論達第四号のご発表を受け全員で拝読

真柱様より論達第四号のご発表があった10月26日午後一時より、詰所4階講堂に役員、教会長を始め婦参者約100名が集まり、全員で論達を拝読しました。



拝読後、挨拶に立った大教会長は、秋季大祭において真柱様より直々「論達」をご発表頂いたときの様子について述べられ、「私は真柱様の姿勢を拝見して、年祭活動に向かってまず執着を捨て去ること、そして良いと信じる話は堂々と発することをさせて頂きたいと思いました」と新たな決意を述べられました。

その後、1階ロビーで本部より各教会に下付されたB2サイズの掲示用論達と、直轄教会ごとに事前注文を受けていた論達が配布されました。

青年会総会に代表参加

天理教青

年会第96回総会が10月27日に教会本部で開催されました。今回は感染防止のため、二部制(リーダー層限定参加、オンライン配信)となり、本島分会からは3名が代表参加しました。



第一部では、本部神殿にておつとめ後、真柱様よりお言葉を頂戴しました。

第二部では、第二食堂にて青年会長様よりお言葉を頂戴し、これからの活動に向けて決意を新たにしました。

實峰分教会2代会長就任奉告祭



と仰っていました。それは長年ひたすら神様へのご恩報じの道を歩み、おちばに運び、上級に尽くし、部内や信者さんに心をかけてこられたからです。

實峰分教会(江草克二会長、山口県周南市)では、8月25日のお運びで江草克二氏の教会長任命の理のお許しを頂いておりましたが、去る10月9日正午より片山かおり大教会長夫人(随行・岩橋慶三役員)を迎え、2代会長就任奉告祭を執り行いました。参拝者62名。

修養科一期講師を勤める大教会長様からのメッセージをおかり夫人が代読。まず長年教会長を勤められてきた宮路實子前会長へお労いを述べられ、続いて

「片山好造会長が晩年、あとに続く者に対して『本島の田地は肥えているからご守護いただけるようになって』

實峰も同じだと思えます。

宮路實子前会長さんは、教会長として約28年間ひたすら尽くし運んで、運んではまた尽くしてこられました。實峰の田地は肥えていると思います。しっかり身上や事情に悩み苦しんでおられる人に目を向けて、陽気ぐらしの種を蒔きましよう。



そして『いつでもどこでも誰にでも』おたすけの心を使いましよう。きつとご守護頂けると信じています。」と激励され、最後に

「10月26日に論達第四号をご発表頂き、その精神に全教会が一手一つになって世界たすけに邁進する時句を迎えますので、共に勇んで真柱様について行きましょう。そして教祖140年祭には大きな實を頂けるよう、日々教祖を身近に、教祖と共に歩ませて頂きましょう。さらに道の後輩たちのためにも、我々も田地をしっかりと肥やして行きましょう。」と次なる目標を示されました。

続いておつとめが陽気に勇んで勤められました。宮路實子前会長は現在の山口県周南市で布教を始めて約60年、奉告祭にはコロナ禍で数年ぶりに参拝された布教所長、数十年來信仰されている信者さん、さらに家族連れなど大勢集まり、和やかに勤められました。

事情はいつ

立教185年10月、本島関係のお運びはありませんでした。

おさづけの理拝戴

(立教185年9月分)

- 吉峰 直井弥生
- 栄東峰 吉田淳也
- 鶴峰 宍戸元喜

【計3名】

教人登録

(立教185年9月分)

- 吉松峰 永田成美

【計1名】

教会長資格検定合格

(立教185年9月17日付)

- 本米里 鈴木勝義

【計1名】

おさづけお取り次ぎ報告

(立教185年10月22日)

- 提出教会 16教会
- 報告数 550回
- 本年累計 12,2884回

青年会雅楽講習会

青年会本島分会(片山秀明委員長)では10月9日と10日、本島詰所にて「秋季雅楽講習会」を開催。青年会員10名が参加しました。志越調を主とした雅楽の習得に励みま



をびや許し

(立教185年9月分)

- ▼本樺△阿部加菜子 ▼本室△中村郁恵 ▼本米里△山崎絵里子 ▼フリリッピン△山口ななえ ▼本日比△石原祐美

【計5名】

大教会長動向

▼11月(予定)▲
1日〜27日、修養科一期講師
以上

少年会新隊長

(立教185年10月分)

- 本島隊 上野 善
- 本樺隊 大上 太吉
- 渋谷隊 永島 岳
- 本恵隊 今野理喜人
- 本静濱隊 今野光梨
- 本静森隊 林 主真
- 本千代隊 御代田さくら
- 攝泉隊 高松 類叶
- 同朋隊 新見 卓朗
- 那波隊 村岡 颯真
- 本幹隊 倉島 優理
- 本宮濱隊 岩橋 涼音
- 本清水隊 金子 慎来
- 本九隊 服部 青音
- 本陽山隊 原 颯杜
- 豪峰隊 本多 和尊
- 大駿峰隊 宮川 大和

【計17隊】

本島野球部初戦突破

全教野球大会に出場した本島野球部は初戦を10月28日午前10時30分より白川グラウンドAで神奈川教区と対戦。16対3の3回コールド勝ちにより2回戦に進出しました。

慶事

久尾マイルス将太氏(マウイ教会後継者)と小野由貴さん(東神田部属・西鎮分教会教人)の結婚式が10月9日、本部教祖殿にて執り行われました。



肥後信氏(肥後八峰分教会後継者)と中腰節子さん(双名島大教会教人)の結婚式が10月9日、本部教祖殿にて執り行われました。



にをいがけ名簿提出教会 (10月)			
本 樺	10	本 千代	7
本 室	5	本 浦	13
渋谷	20	本 前	3
代々木	2	本 府中	2
本 萬代	2	本 崇徳	7
本 都	63	本 宣道	6
本 京	10	本 陽山	3
本 新田	3	本 赤豪	57
本 峰	10	本 倉東	4
本 峰	57	本 栄東	8
本 峰	4	本 霊峰	6
本 峰	8	本 峰	6
本 峰	6	本 峰	35
本 峰	35		
計 21 教会		239 名	

11月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

<大教会・炊事ひのきしん>
●期間：11月21日～22日
●派遣教会：本浜

<詰所・食堂ひのきしん>
●期間：11月25日～26日
●派遣教会：本攝、琴浦、本宣道

るくとん

(立教185年10月分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太 ▼樺太分教会 ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼崇徳分教会△高垣ひかり ▼本高分教会 ▼マウイ△久尾マイルス将太・由貴 ▼ポーランド△片山和信・陽子・昇慶・童次 ▼シートタック教会

江草克氏略歴 昭和33年9月13日生まれ。立教153年12月21日、おさづけの理拝戴。立教153年12月27日、修養科第594期修了。立教156年3月17日、教会長資格検定講習会前期修了。立教156年4月1日、教人登録。立教164年5月20日、教会長資格検定合格。立教175年7月1日、教会長資格登録。立教180年12月22日、大教会神殿奉仕人指名。立教185年8月25日、實峰分教会2代会長拜命。



本部巡教

【総務部】

教祖140年祭本部巡教

- 期日：立教186年1月21日(土)
- 会場：本島大教会
- 巡教員：本部員 田中善吉先生
- 受講対象者：教会長、大教会役員、准役員(その他、教会長配偶者、後継者、前会長、布教所長等、各教会でご相談ください)

全教会一斉巡教

【総務部】

教祖140年祭全教会一斉巡教について

- 期間：立教186年2月から5月末日まで
- 実施日：祭典日もしくはそれ以外の日でもよい
- 巡教希望日を直轄教会に取りまとめて、所定の用紙に記入の上、11月22日までに総務(牧野道昭・井上哲)宛にご提出ください。

三代会長片山俊次30年祭

【本島大教会】

〈本部祖霊殿における年祭〉

本部員・本島大教会三代会長片山俊次30年祭

- 期日：立教186年4月20日(木) 午前10時
- 祭主：本部員 宮森与一郎先生

〈大教会における年祭〉

本部員・本島大教会三代会長片山俊次30年祭ならびに夫人片山コズエ20年祭

- 期日：立教186年10月21日(土) 時間未定
- 祭主：本部員 宮森与一郎先生

<https://www.honjima.com/>

本島大教会ウェブサイト

立教186年心定め提出

【総務部】

- 「立教186年心定め」は、11月22日までに、直轄教会ごと所定の用紙にて封書密封の上、総務(牧野道昭、井上哲)へご提出ください。

会計部より

【会計部】

- 立教186年お鏡料・献灯料・御神酒料は一教会2,000円以上です。本年12月22日までに、大教会会計部へお納め下さい。

第30回女子青年大会

【婦人会本部】

- 日時：11月27日(日)午前10時より式典
- 会場：本部中庭

本島女子青年部スケジュール

- 11月26日 18:30 受付①(詰所写真の間)、大教会長様よりご挨拶
- 11月27日 朝食後受付②(詰所1階食堂前)、9:10 詰所玄関前集合、記念写真、出発、10:00 式典参加、11:15 西境内地清掃ひのきしん、12:00 昼食、13:00 本島女子会(支部長挨拶、スゴロクトーク振り返り、委員長挨拶)、14:30 解散
- 詰所の宿泊食事の予約は各自(もしくは各教会)より詰所事務所までお申し込みください
- 女子青年大会後は清掃ひのきしんがありますので、動きやすい服装でご参加ください
- 27日の別席(午前席)を受ける方は、7:30から8:00までに別席受付をお済ませください。午後席は通常通りです。
- 女子青年担当：原口和子 (080-4312-6924)

青年会本島分会総会

【青年会本島分会】

- 日時：11月20日(日)10時30分～
- 会場：本島大教会

教祖140年祭決起の集い

【年祭活動実行委員会(仮称)】

- 日時：立教186年1月25日(水) 午後1時から4時まで
- 場所：本島詰所4階講堂
- 対象：大教会役員、准役員、教会長夫妻(欠席の場合代理)
- 用意：論達第四号、筆記用具
- 内容：論達第四号拝読、大教会長挨拶、意見交換、お願いづとめ(西礼拝場)
- 各教会の参加者氏名を12月22日まで大教会事務所へお届け(またはFAX)をお願いします

布教の家入寮者募集

【布教部】

- 期間：3月29日「入寮研修会」から、翌年3月27日「卒寮の集い」まで
- 資格：①所属教会長ならびに直属教会長から推薦された天理教教人。②年齢は問わない。ただし、毎日布教に歩くことができること。③既婚、未婚は問わないが、単身での入寮に限る。
- 願書受付：1月25日午前9時から2月25日午後4時まで、布教一課へ持参。※郵送での提出はできません。各寮(教務支庁)では受付できません。
- 詳細については、布教一課(電話0743-63-2243直通)へお問い合わせ下さい

大教会月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：11月22日大教会月次祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝までにライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：11月21日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。申込み後、自動返信メールが送られます。届かない場合は各自の迷惑メールフォルダをご確認ください。

